10月7日　わらわら学習会

**～参加者～**

あっこ、みわ、愛、しがじゅん

平川、しゅーし

比嘉、わっしー、あゆ

**～「貧困から子どもと障がい者を守るシンポジウム」報告(平川)～**

窓口無料化を求める署名

窓口無料…戻ってくるのだが…一回全部払わなければならない

　→・手元にお金がない→受信抑制

　　・いざという時のために貯金ができない

無料化されている都道府県は30近くある。(長野県は無料化されてない)

なぜ無料にならないのか

　自治体で決めると国からの補助が減る→コンビニ受診・医療者負担を減らすため

　※コンビニ受診は本当に増えるの？→そうとは限らない(群馬？の例)

＊わらわらでこの署名(「子ども・障がい者等の医療費窓口無料化を求める要請書」)を進めるか？

　→和田先生にお話を聞けるのではないか？

障がい者を守る

　親「生活が自転車操業」…働けない

　訪問看護とか頼れないか？→保険がきかず、1日1万円。高い!!

＊いろいろわからないことを調べてくる

＊訪問看護・保険の制度のこととか。

＊今回の障がい者のことを医療者が考える意義

＊菅谷市長に医療費のことを聞きたい

**～6準委、和田浄史先生講演会の報告(しゅーし)～**

　パフェ医

　プロフェッショナル…win & win

　目標と目的

　タブーを作らない・タイミングを外さない

　QOLとは？

　共感と想像

●どんな医者になりたい？

・しがじゅん→臨床研究

・あっこ→市民病院とかで普通にお医者さん。開業は難しそうかな…？

●捨てるものと学ぶもの

①自分が求める医療

②職場が求める医療

③地域が求める医療

　→これらが揃わないとできない

●いろんな医者がいる

・Specialist…専門医

・Generalist…総合診療医　　※総合診療医→今度から専門科になる

・その間…specialityを持ったgeneralist

●パフェ医

●目標と目的

レンガを積む人は…？

　レンガを積むことで生活費が生まれます。

　レンガを積むことで後世に残る建物を建てることができます。

手術をする人は…？

　研究のため

　地域のため

目標…目の前にあること(資格を取る)

目的…その先にあること(患者さんのため、地域のため)

そうじゃないと、足元がふわふわした医者になるよ。

●プロフェッショナリズム

=win-win(医療者も患者さんも)

そうじゃないとき…医療者が自分の功績のために医療を行ったりとか。

●QOL=quality of life→生活の質

Happyになるかどうか。

●タブーを作らない・タイミングを外さない

　→terminal終末期　の時の話

患者さんをhappyにするために、何とかする…【タブーを作らない】

求められてる医療にその時その時で対応する…【タイミングを外さない】

病院はタブーを作らず、患者さんが求めていることに応える

自分たちの価値観にとらわれないこと

※お寿司の例

※お誕生日の例

※子供に会いたいおじいさんの例

●「歩けない」と「歩きたい」のずれ

歩けないという事実を患者さんに受け止めさせなきゃ

受容したからこそ開ける展望がある。

先生の話：歩けないとき、「もし歩けるようになったらどこに行きたいですか？」など、「もし～なら…」という形で、未来志向の話をする。車椅子でも連れて行ける。受容から希望が生まれる。

●共感と想像

「昨日眠れなかったんです」　-　「何かあったの？」【理由を聞いてあげる】

 　　　　「枕変えます？」【提案】

 「辛かったですね。」【共感】

 「今日は眠りたいですよね」

まず共感→その上で、想像→提案

●終末期にベッドサイドモニターなし

→迫ってるみたいな印象を与えないように

あったら、患者さんも気になるし、家族はモニターばかり見てしまう。それはやだよね

患者さんがなくなったら、家族が看取り終わるまで、医療者は介入しない

●地域・集団のプロフェっしょなりティー

チームのよかったところを共有する。褒める。「ありがとう」の声かけ

　→医療者の成功体験、モチベーションアップ

もっと患者さんの声を聞いていい医療をしよう、ってなる。

**～感想交流～**

しが：コンビニ受診がわかって良かった。目的を見失わない。捨てるものをこれから必ず出てくるから、目標を変えたり諦めることがあったとしても、目的は大事にし続けたい。

あこ：高校の面接の練習の時に、「やりがいがあるから」じゃなくて、「人のため」と考えて医療をしたほうがいい、と先生に言われた。

しゅ：地域で働くことが目標。といっても、じゃぁ次は？ってなる。目的がないとわかんなくなる。

みわ：QOLのところ、治療を患者さんにして、患者さんをハッピーにする。医者のすることなのかどうか。と思ったが、幸せにする隊みたいな。そういうお医者さんになりたい。

しゅ：Drクレハを思い出した。「みんな、happyかい？」

あい：もりだくさんだった。直接お話を聞きたかった。いろいろ思い出すことがあった。看護はやってる側も普段辛くて、退院する前とかしかお礼を言ってもらえないし、暴言吐かれたりという話を聞く。素直に、患者さんが治ったのを喜べるようになりたい。

しゅ：感情豊かになったら逆に、辛いことも多くなるんじゃないか。でも、共感するためには感情豊かにならないとね。なりたいね。

ひが：成功例以上に失敗例もあるんじゃないかな。失敗しても、クレームがあるだろうが、それでもやってきたのはすごい。